

技の肖像



赤松まゆみさん。特殊な道具を使って革を型の底面につり込む

靴職人

「その人が欲しいデザインと、その人の足に合った心地よさ。両方とも満たす靴を作るのが私の仕事です」

仙台市内でオーダー靴を手掛ける赤松まゆみさんはそう話す。

靴づくりは、まず依頼者との「対話」から始まる。靴を使う場面や好みのデザイン、色などを聞き、どんな靴を作るかを決めたら、足のさまざまな場所を調べていく。

「採寸のほか、お客様の足に触れて骨格や筋肉の付き方も丁寧に調べます。それから靴を作るための型を製作します」

足の形は人それぞれ。左右で大きさが違う場合もあるという。型をもとに型紙を起し、革を裁断。パーツごとにミシンで縫製し、再び型に合わせて形を整える。こうして仕上げた靴の上の部分に靴底を貼り付け、「仮靴」を完成させる。

「仮靴はお客様に1カ月間試し履きしていただき、履き心地や気になる部分を確認してから、本番の靴を一から作り始めます。そのため、1足の靴を完成させるのに最短期間で3カ月は必要なんです」

シーズンごとに買い替えていたくらい靴が好きなのは赤松さん。「自分の足に合った靴がなかなかなくて、足の痛みを気にしていました。それなら、自分が欲しい靴を作っ

てしまおうと思いました」
こうしてデザイン系の大学を卒業後、東京で靴づくりを学んだ。その後は、靴の修理の仕事や靴工房で技術を磨き、2014年に仙台で独立した。

「出来上がった靴を履いて喜ぶお客様の笑顔は励みになります。一生靴を作り続けていきたいですね」と赤松さんは笑顔で語ると、再び静かに手を動かし始めた。



1. 型紙通りに裁断した革のパーツをミシンで縫い合わせる 2. 釘を打ち、靴の上部にあたる革と中底を止める 3. 大人が使うオーダー靴のほか、子どものファーストシューズの注文も受ける 4. 「世界に一つしかない靴を作り続けられるのがオーダー靴製作の魅力」と語る赤松さん

問い合わせ
注文靴屋カルツ

仙台市青葉区立町 21-5-103
「菅沼靴工房」内
TEL: 080-1857-1287
http://calz.sakura.ne.jp/



Report 技能士を育てる。

宮城県内の企業には、優れた技術を持つ多様な技能士が活躍する。宮城のものづくりを支える匠たちを、企業がどのように育て、技を伝えているのかを紹介する。

株式会社竜門園 (仙台市)

1974年創業。一般住宅の庭をはじめ寺社の庭園や街路樹などさまざまな場所の庭づくりと緑化に携わる。2004年にイギリスで開かれた世界最高峰のガーデニング大会で、最優秀賞を獲得。国内のコンテストでも数々の賞に輝き、高い技術が評価されている。

庭や公園などの緑地を作り維持管理をする造園業の仕事では、枝や葉を剪定するだけでなく、接ぎ木や肥料、石の施工や樹木の病気に関することなど、多くの知識や技術が必要である。

そのため、株式会社竜門園では、国家資格の「造園技能士」や「土木施工管理技士」など20種類以上の資格を持った職人が所属し、庭づくりの現場で活躍している。

「国家資格取得への挑戦は、職人にとって技術や知識を学ぶ貴重な機会の一つ。特に、技能検定では実技試験で竹垣や景石といった日本庭園の伝統様式が扱われているため、力を入れています」と齋藤健社長は話す。

同社では、受検希望者に対して、有資格者である先輩職人が実技指導を行っている。また、同社の展示場内に植栽されている樹木を用いて、樹種を判定する要素試験の練習なども行う。業界団体が開催する事前講習会の受講料の全額補助や、有資格者手当の支給などで会社が全面的にバックアップする。

齋藤社長は、「1級技能士の取得後も、さらに経験と実績を積んで登録基幹技能者の取得を目指します。こうして、樹木や造園の幅広い知識を持った一流の職人を育て、お客様の大切な庭づくりを手掛けています」と話した。

国内屈指の技が光る。造園のエキスパート

技能士 MEMO

造園技能士

造園に必要な知識や技術を持つことを証明する国家資格を有する者。検定試験は庭園を作成する作業試験と樹木の枝を見て樹種を判定する要素試験がある

登録基幹技能者

熟達した作業能力と豊富な知識、マネジメント能力に優れた技能者として、専門工事業団体の資格認定を受けた者。登録造園基幹技能者は、1級造園技能士の資格を持ち、実務経験10年以上、職長経験3年以上の者が認定講習を受講することで与えられる

企業情報

所在地: 仙台市泉区松森字前沼 48-2
TEL: 022-373-3934
http://ryumonon.co.jp/



事業内容: 住まいや緑に関わる企画・設計・施工・管理

技能士数: のべ14人 (2018年8月現在)

技能職種: 造園



1 仙台城址内の樹木を剪定する1級造園技能士の早坂晋也さん。「庭づくりは、成果が目に見えて現れるので、やりがいを感じられる仕事です」と話す 2 技能検定・実技試験の様子。指定された区画内で、制限時間内に竹垣の製作や植栽などの作業を行う 3 代表取締役の齋藤健さん。「最近の一般住宅ではエクステリアの施工が多い。これまでの造園の知識のほかに、より住居に近い部分での施工に関する知識や技術が職人に求められています」と話す